EICA Journal of EICA Essay エッセイ

森林伐採が都市を滅ぼす

Over Deforestation Destroy Metropolis

奥　野　長　晴
Nagaharu　Okuno

滋賀県立大学 名誉教授

エーゲ海や地中海に面した古代都市，トロイやベルガモなどがなぜ滅亡して廃墟になったのか？ 高校の世界史の時間，この原因は戦争であると学んだ。それは本当だろうか？ 戦いに敗れて，町が破壊されても，それが元で廃墟になるとは信じ難い。原爆を受けて徹底的に破壊された広島，その広島の今の姿を見よ。ベルリンまたしかりである。京都も応仁の大火により町が灰燼になっている。それにもかかわらず現在の京都があるではないか？ もっともアメリカ中西部にはゴーストタウンが散在する。多くはゴールドラッシュの名残だ。金が枯渇すれば生活に不便な山奥に住み続ける理由はない。だから町は廃墟になる。逆に，なにかの価値がある限り，たとえ一時破壊されても，人々は住み続け，町は必ず復興する。だから都市の滅亡にはなにか特別の理由があるはずである。

トロイと並ぶ古代都市の一つ，エフェソスは現在のトルコ共和国の西端に位置していた。今から2000年ほど前のギリシャ・ローマ時代には，この都市も繁栄の極みにあった。当時，そこには24,000人収容可能な大劇場，アレキサンドリアに次ぐ規模を持つケルスス大図書館，1,400人収容可能なオデオン公会堂，アルタミス神殿，3階建のスコラスチカの公衆浴場，娼館，などがあった。これらの遺跡に接すると，往時の殷賑ぶりが目に浮かぶ。天然の良港を活用した海洋交易がエフェソスに巨万の富をもたらしたという。富の原源はエーゲ海に開けた港湾であったのである。ところが，600年後，エフェソスは廃墟になってしまった。その謎が花粉の調査から少しずつわかってきた。植物の花粉は数千年経過しても変化しない。だから，年代ごとの地層中の花粉を分析すればその年代の植物が分かる。4000年前の地層には，楢の花粉が多い。この時代，エフェソスは鬱蒼とした森林で覆われていた。3000年前の地層からはオオバコの花粉が現れる。これは牧草である。放牧が行われていたのだ。そして，エフェソスが繁栄のピークにあった2000年前の地層から小麦の花粉が出土する。これは農業を意味する。海洋交易による経済発展，人口増加をささえるためには，森林を伐採，跡地の農地化が必要であった。今から考えると，これがエフェソス滅亡の第一歩であった。すなわち森林伐採は異常気候を引き起こした。トルコの西端はもともと乾燥気味である。森林がなくなると大幅に雨が減少し，土地はますます乾燥する。そして，たまたま降れば土砂降りの大雨となる。これが表土を侵食，その土砂が港をうめていった。ゆっくりではあるけれども，確実に破滅に向かっていった。4世紀には港湾の面積は往時の1/4に減少，いくら浚渫しても埋没に追いつかない。6世紀の終わりごろには港が完全に埋没してしまった。埋没部分は湿地となり，蚊が大発生，マラリヤが猖獗した。7世紀になると人々は消えてしまった。そして完全に廃墟となったのである。

ギリシャ・ローマ時代に花咲いた地中海文明も，環境の変化には勝てなかった。これがエフェソスに限らず，多くの古代都市がたどった運命だったのである。もとをただせば，森林の伐採が，そしてもっと言えば「文明そのものが自壊の種を内蔵していた」である。

お隣の中国にもこの例がある。BC200年，秦の時代には早くも陶器と鉄の文明がはじまった。これらの生産には多量の燃料が必要である。当時石炭も石油まだ見つかっていない。木だけが唯一の燃料であった。鉄文明黎明の裏側には森林の過剰伐採があったのである。これが降雨の減少，ひいては，首都（今日の西安）周辺の砂漠化を促進した。今日の黄砂の原因はここにある。「植物の生産性が文明発展の律速となる」が結論である。

参考資料：NHK TV番組　46億年後の地球